

Hiroshima

Mukaihara

Miyoshi

Bingo-Shobara

Bingo-Saijo

Bingo-Ochiai

Tojo

Bitchu-Kojiro

 目次

- 1 令和4年度 利用促進事業の取組状況**
- 2 令和5年度 利用促進事業の取組状況**



目次

- 1 令和4年度 利用促進事業の取組状況**
- 2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

1 令和4年度 利用促進事業の取組状況

➤ 令和4年度取組の全体像

取組の基本理念

JR芸備線の利用促進の取組を通じて、**交流人口や定住人口の増加を図り、魅力ある、持続可能な沿線地域のまちづくりを推進**する。

① 利用促進への市民参画の推進

② 生活交通としての利用促進 (日常利用)

③ 市外からの乗客の呼び込み (観光利用)

事業実施に当たっての方針

- JR芸備線の利用促進に向け、上記の3つの柱により関係者が一丸となったインパクトのある利用促進策を実施し、利用客の増加に資する取組みを推進する。
- 沿線市町及び芸備線対策協議会等との連携により、広域的な観点から、**日常利用・観光利用の機運醸成**を図る。
- 「ファクトとデータ」に基づく検討を進めるため、**情報収集・分析の観点を踏まえた取組**を行う。

➤ 利用促進への市民参画の推進、生活交通としての利用促進

◆中学生3年生への芸備線利用促進の呼び掛け

庄原市内又は三次市内の高等学校へJ R 芸備線を利用し通学する見込みのある、**庄原市内及び三次市内の芸備線沿線地域の中学校生徒**に対し、**芸備線を利用した通学の呼び掛け**を行うことで、芸備線利用促進を図る。（約600人、R4.7.1~R5.3.31）

【内容】

- 昨年の「高校生モニター調査」の結果を踏まえ、**高校通学の方法を検討する中学生にプランを提示した**（通学定期券情報、乗車方法、運行情報に関するお知らせ、**先輩たちの声**として**芸備線で通学することのメリット**など）呼びかけの結果**15名の生徒から芸備線利用を検討したいとの相談**があった。
- 15名の参加者に意向調査を実施し、効果検証を行った。
 - ・ 15名のうち、**11名が高校入学後は芸備線で通学する**との回答であった。
 - ・ **志望校が定まる2月の働きかけが有効**だった。
 - ・ 保護者送迎で通学する生徒に対しても、送迎が出来ないときの芸備線利用を促進する必要性
 - ・ 使わない意向の生徒も、**駅との2次交通や丁度いい便**があれば、通学で使ってみようと思うと回答 等々

【課題】

- 教育委員会への協力依頼や保護者への働きかけも含め、関係者の理解・連携が必要であり、**意識の醸成と取組の日常化には相当な時間を要する**。



1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【広島県】

継続

➤ 利用促進への市民参画の推進、生活交通としての利用促進

◆地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助

鉄道網を地域資源として活用し、中山間地域ならではの持続可能な地域交流の拡大や地域の利便性向上に取り組む自治体・沿線協議会の取組を支援する。

【内容】

芸備線を利用し、盛り上げる取組を行う地元市、沿線協議会が企画する利用促進策への補助
(補助率：経費の1/2～)

【補助対象事業】

- 庄原市：ローカルダイブ・トレイン、臨時シャトルバスの運行 他
- 庄原DMO：庄原ライナーを活用した庄原市内を巡る観光ツアー
- 芸対協：芸備線サイクルトレイン、神杉駅100周年記念事業 他

【評価】

- 沿線自治体・沿線協議会に対し、利用促進策に係る経費の負担軽減を図ることで、事業の持続可能性を高まっているほか、**取組の横展開が図られている**。(例：サイクルトレイン(芸対協、福対協))
- 沿線住民の行動変容につなげていく観点から、一過性の取組にならないよう、引き続き沿線自治体と密に連携していく中で、必要に応じて**フォローアップを交えていく必要がある**と考える。



➤ 市外からの乗客の呼び込み

◆快速「庄原ライナー」と連携した取組

快速「庄原ライナー」の運行と合わせ、**地元交通事業者、観光事業者、住民団体などが連携し、庄原地域にしかない観光資源を活用した、インパクトのある利用促進事業を展開した。**

運行期間：令和4年10月22日～12月11日（土休日13日間）

【内容】

- **庄原ライナーツアーの実施**
鉄道移動そのものを楽しむ旅行商品を造成
 ⇒ 期間中203名が参加
- **庄原ライナーに合わせた二次交通の整備【新規】**
公共交通機関で観光に訪れるニーズに対応
 - ・ 市内観光拠点へ**臨時シャトルバスを運行**
 ⇒ 期間中計7日間運行し、72名が利用
 - ・ **市街地循環バスのダイヤ変更**
 市街地へも誘客を図るため、市街地循環バスのダイヤを変更し、乗り継ぎを改善



1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【庄原市】

継続＋新たな取組

➤ 市外からの乗客の呼び込み

◆快速「庄原ライナー」と連携した取組

【実績】

年度	利用者数	ツアー	
		ツアー	一般
R元(往)	661(44/回)	403(61%)	258(39%)
(復)	421(28/回)		
R2	389(35/回)	227(58%)	162(42%)
R3	516(29/回)	165(32%)	351(68%)
R4	481(27/回)	203(42%)	278(58%)

【評価】

- ツアーの継続とともに、(ツアー以外の)一般観光客への取組として、**観光地へのスムーズな移動手段の確保が重要**という認識のもと、臨時シャトルバスを運行し、多くの利用とともに好評を得た。
- シャトルバスの利用や、市街地循環バス等を利用した国営備北丘陵公園等といった観光拠点への来訪といった、ツアー客以外の利用が多いことが一定程度確認できた。
- 引き続き、観光客の「ニーズを捉え、応える」という取組の中で、更なる利用者増を図るためには、現在進めている**ローカル・ダイブ・トレイン、観光プロダクト開発及び市の観光施策との連携が重要**であると考えている。



➤ 利用促進への市民参画の推進、市外からの乗客の呼び込み

◆「ローカルダイブ・トレイン」モニターツアー

今後における芸備線・木次線を活用した**観光振興に向け、「ローカル志向」の人々を呼び込む**よう、地方の日常や地方で暮らす人々の心に触れることをテーマとした「ローカルダイブ・トレイン」モニターツアーを実施した。

【内容】

- 第1回：令和4年8月20日
 - ・ 臨時貸切列車（広島駅発～備後落合駅着）を運行
 - ・ **臨時貸切列車を効果的に使い、市外から多くの乗客の呼び込みを図る内容**
 - ・ 5コース設け、コースに応じた各駅に到着後は、二次交通（マイクロバス、タクシー）で移動
 - ・ 参加者30名（一般参加者）
- 第2回：令和5年3月
 - ・ 定期便を利用した1泊2日の行程
 - ・ **既存の便及び地域資源を活用したありのままの庄原市に触れる内容**
 - ・ 3コース設け、コースに応じた各駅に到着後は、二次交通（ジャンボタクシー）で移動
 - ・ 参加者7名（旅行・出版関係者）



↑どぶろくのポトリング



↑「棚田テラス」からの景観



↑こんにやくづくり体験



↑帝釈峽でのガイドによる案内



↑山野草の説明

➤ 利用促進への市民参画の推進、市外からの乗客の呼び込み

◆「ローカルダイブ・トレイン」モニターツアー

【実績（参加者の声）】

- 芸備線の車窓がゆっくりと里山の風景に移り変わっていくことで、**地域への没入感**が得られた。
- これまでの旅行商品には無い**地域の人々の営みを肌で感じられる旅程**を通じて、地域の歴史、文化、暮らしを深く知ることができた。
- 初めて訪れる場所でありながら、懐かしさが感じられる原風景や人々との交流があり、**魅力的な地域であることを知ることができたので、また足を運んでみたい。**

【評価】

- **既存の便や地域資源を活用した「ローカル志向」**の人々の来訪による、**交流人口や定住人口の増加に向けた取組の実現可能性**が見出せた。
- 取組の実現可能性を測るに当たり、**来訪者がもたらす地域への影響（便益）**を調査・分析していく必要がある。



↑どぶろくのポトリング



↑「棚田テラス」からの景観



↑こんにやくづくり体験



↑帝釈峽でのガイドによる案内



↑山野草の説明

➤ 利用促進への市民参画の推進、市外からの乗客の呼び込み

◆ JR芸備線・木次線沿線3市町連携利用促進イベント

沿線3市町（奥出雲町、新見市、庄原市）による連携事業として、**芸備線・木次線を生かした地域振興の可能性**について考えるシンポジウムを開催した。

【内容】

- 開催日時
令和4年11月27日
- 開催場所
ウイル西城（庄原市西城町）
- 開催内容
 - ・ えちごトキめき鉄道(株)代表取締役社長 鳥塚 亮 氏による基調講演
 - ・ 芸備線・木次線沿線関係者によるパネルディスカッション 等
- 参加者
582名（来場者約150名、ライブ配信57名、アーカイブ配信視聴者375名）



➤ 利用促進への市民参画の推進、市外からの乗客の呼び込み

◆ JR芸備線・木次線沿線3市町連携利用促進イベント

【実績（参加者の声）】

- 講演で、ローカル鉄道を日常利用の移動手段だけではなく、**観光誘客のツールとして、鉄道に新しい価値を見出した事例**を多く知ることができた。
- 近隣市町が取り組む利用促進策の内、**住民が主体となって取り組まれている地域資源を生かした事例**を参考にし、地域のにぎわいづくりに生かしていきたい。

【評価】

- 先進事例の紹介や関係者によるパネルディスカッション等の内容を、オンラインを活用しながら広く発信することで、**利用促進策のノウハウを共有**することにつながった。
- 取組事例を踏まえた地域住民を含めた**関係者による利用促進策の検討・実施につなげていくよう後押し**が重要。



➤ 利用促進への市民参画の推進、生活交通としての利用促進、市外からの乗客の呼び込み

◆地域チームに対する活動支援

各地域チーム（庄原、西城、東城）による芸備線・木次線の利用促進のほか、利用促進と関わる地域づくり活動等の取組に対し、支援金を交付した。

【内容・実績】

- 青年会議所や高校生といった地域の若者とコラボし、ラッピング列車を活用した親子向けイベントの開催
- 駅周辺の環境整備を行った後、大学教授による地元駅の歴史や芸備線・木次線の魅力に触れる勉強会の開催
- JR職員や高校生の協力を得ながら、駅の清掃や修繕、線路沿いの環境整備（草刈や花植え）等の実施
- 今後の利用促進の知見やノウハウを得るよう、他地域の取組事例の視察研修の実施
- 芸備線・木次線沿線各駅を対象とした誘客事業（スタンプラリー、駅前イベント）の実施 等
計10件

【評価】

- 利用機運を高める取組を**地域が協働で実施する体制づくりに寄与**した。
- **住民主体の活動が持続可能なものとなるよう継続して支援**していくことで、地域住民の芸備線の利用機運を高めることにつながると考える。



1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【芸対協】

新規

➤ 生活交通としての利用促進、市外からの乗客の呼び込み

芸備線サイクルトレイン (芸備線対策協議会)

【内容】

自転車を列車に持ち込めるサイクルトレインを運行し、主に**庄原・三次エリアのサイクリングを通して地域の魅力を発掘・体験できる**イベントを実施した。

実施日 : 令和4年11月12日

参加者数 : 62名 (内、50kmコース29名、25kmコース33名)

【評価】

「列車だけ、自転車だけでは訪れることができない場所に足を運ぶことができた」、「分かりやすい案内があれば、イベントでなくとも平常時から誘客につなげられるのではないか」などの声があり、**芸備線の利用者を増やす新たな可能性**を見出すことにつながった。

イベントの定期化等、恒常的にサイクリストを呼び込めるようなコンテンツへと発展させていく。



鉄道利用に係るニーズ調査 (芸備線対策協議会)

【内容】

備後庄原～三次間の列車に乗り込み、乗客にアンケート調査 (乗車区間、利用目的、駅までの移動手段、年齢、利用頻度の5項目) を行った。

実施日 : 令和4年10月6日

件数 : 303件

【評価】

芸備線の利用目的や利用状況を把握することで、**利用促進に生かしていくための基礎データの収集**につながった。

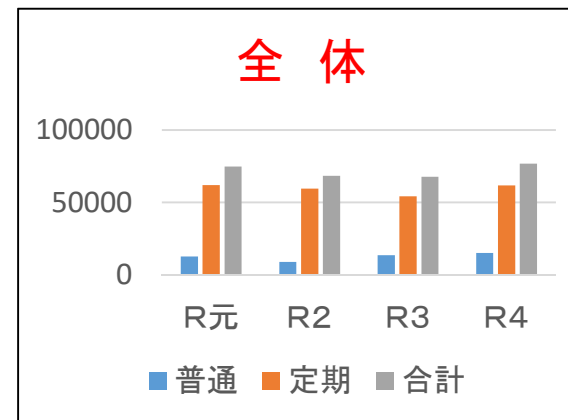
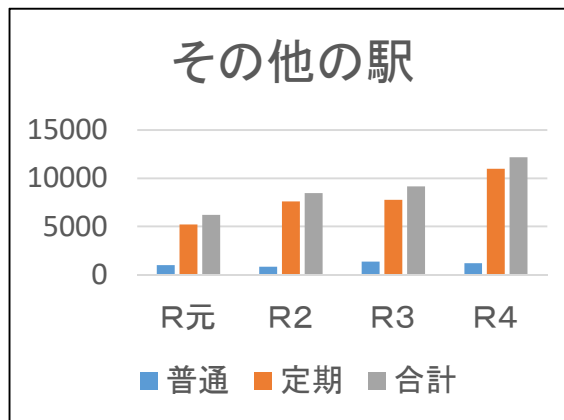
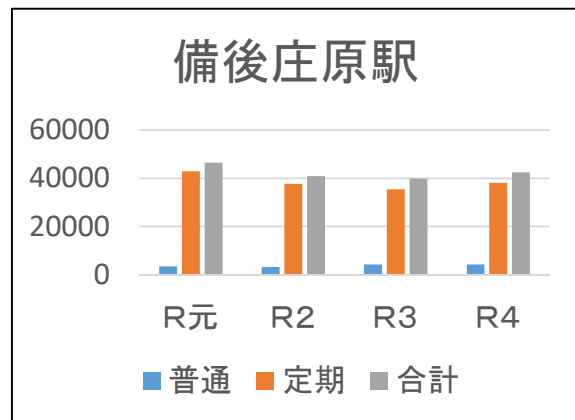
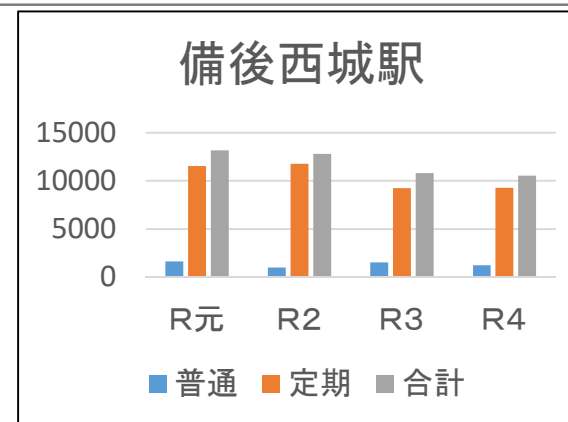
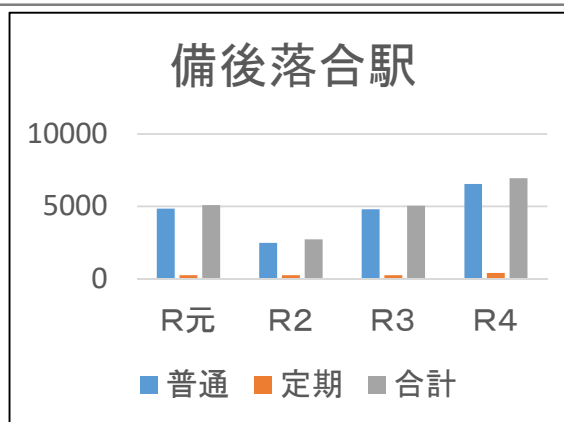
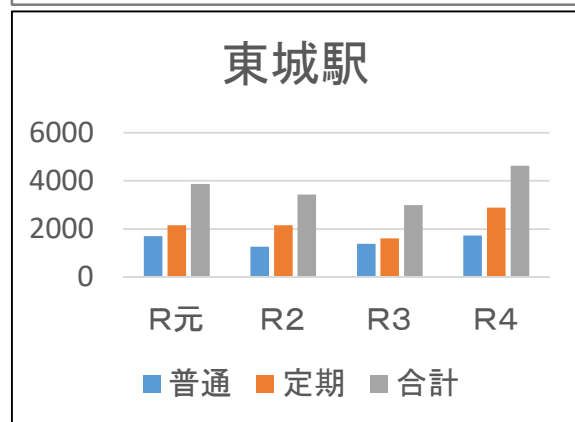
調査結果と移動量 (人流) データを活用し、**鉄道利用の拡大や移動手段の鉄道への転換策を検討**していく。

- 主な調査結果 : 利用目的の内通学利用が約80%
普段から利用する割合は三次～下深川間より多く約85%
- 活用例 : 駅までの主な利用交通手段の把握による二次交通の検討。
駅間利用者数と利用目的の把握による移動手段の転換策が効果的な箇所の把握

1 令和4年度 利用促進事業の取組状況

➤ JR芸備線輸送人員の推移（庄原市内）

- コロナ前（令和元年度）と比較し、利用者増につながっている。
【全体（合計）】 R元：74,724人⇒R4：76,722人（1,998人増）2.7%増
- 利用者増は、普通利用者の増加による影響が大きい。
【合計（普通）】 R元：12,672人⇒R4：15,008人（2,336人増）18.4%増
- 定期利用者の多くは（高校）通学利用と見込まれ、市内外問わず生徒数が減少傾向にある中、微減に留まっている。
【合計（定期）】 R元：62,052人⇒R4：61,714人（338人減）0.54%減



※JR西日本提供

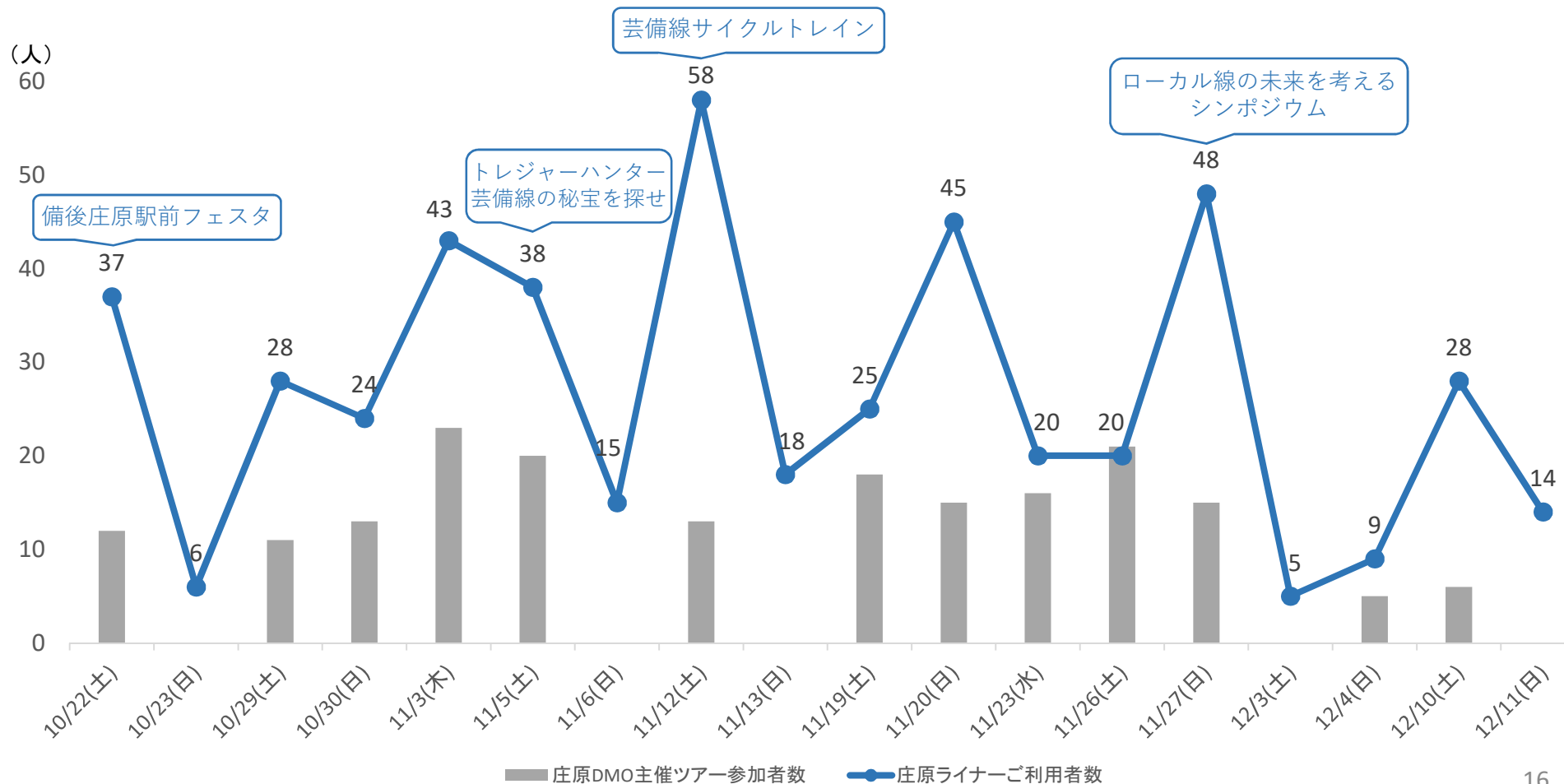
1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

継続

➤ 市外からの乗客の呼び込み

イベント開催日やツアー催行日を中心に、多くのお客さまに庄原ライナーをご利用いただきました。

快速「庄原ライナー」のご利用状況



1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

➤ 市外からの乗客の呼び込み

様々なイベントやツアーを企画いただいたものの、ご利用者数は減少傾向。
更なる潜在ニーズの掘り起こしやリピーターの獲得に取り組むことが必要。

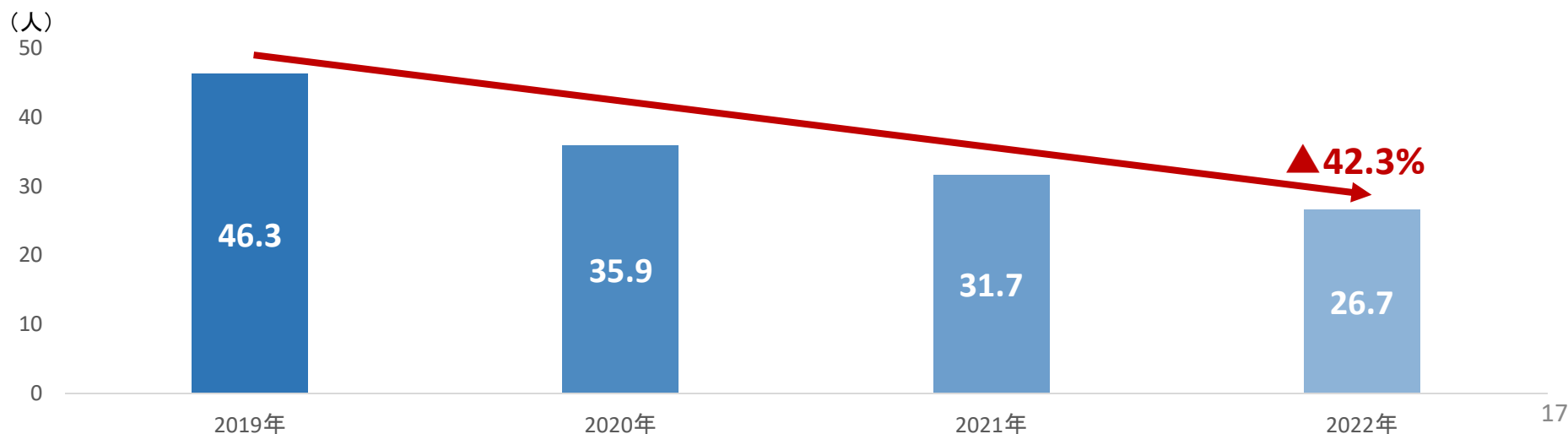
快速「庄原ライナー」のご利用者数の推移

□ 運行実績

年度	期間	日数	広島駅発	備後庄原駅着
2019	10月26日(土)～12月8日(日)の土日祝	15日間	10:05	11:56
2020	11月7日(土)～12月6日(日)の土日祝	11日間	10:05	11:56
2021	10月23日(土)～12月12日(日)の土日祝	18日間	10:05	11:56
2022	10月22日(土)～12月11日(日)の土日祝	18日間	7:33	9:45

庄原エリアでの滞在時間を拡大

□ ご利用者数(1日平均)

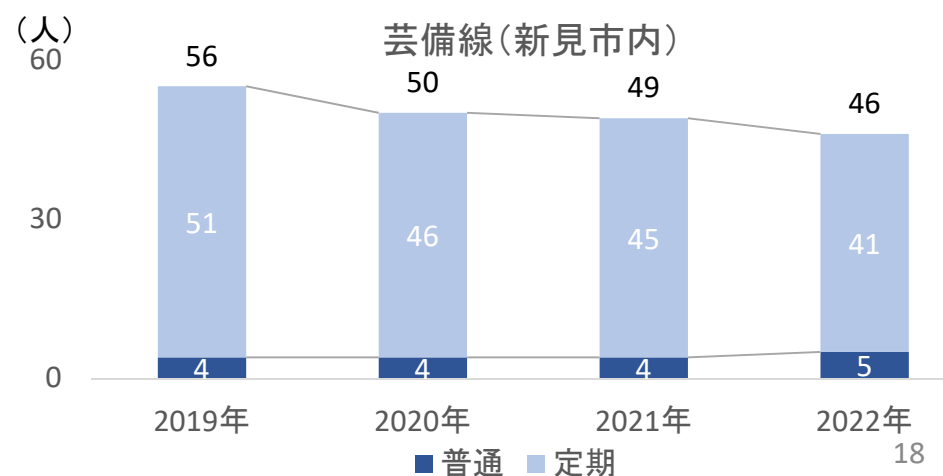
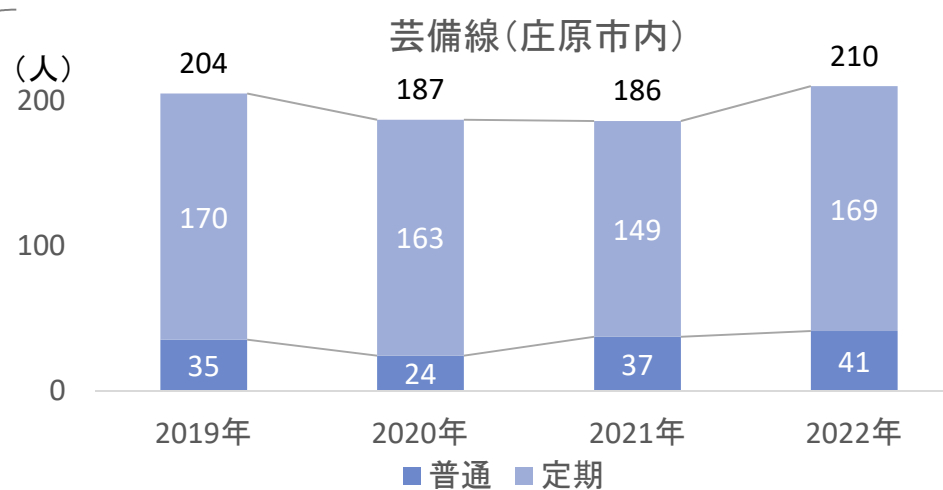
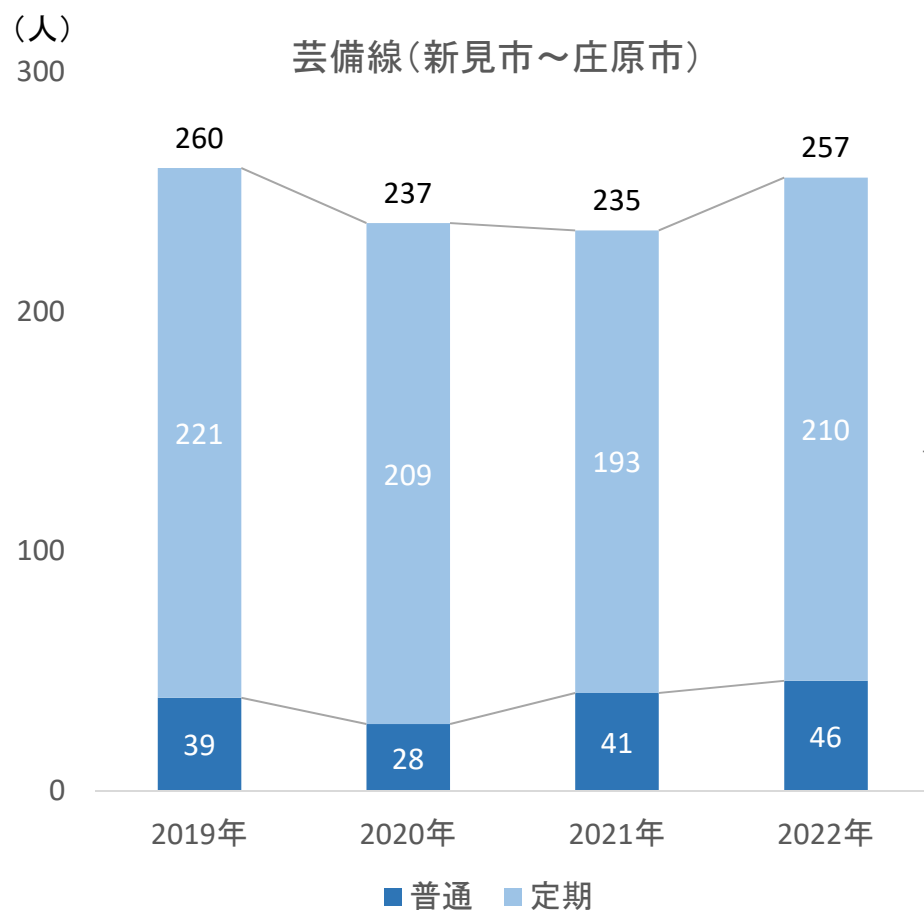


1 令和4年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

コロナ前のご利用状況まで回復しつつある。

沿線市民の皆様の生活における利用をいかに増やしていくか。

乗車人員（1日平均）の推移



1 令和4年度 利用促進事業の取組状況

➤ 一覧（広島県域）

事業名	事業内容	実施主体
JR芸備線・木次線 沿線3市町連携利用促進イベント	芸備線・木次線を活用した地域振興について考えるシンポジウムの開催	庄原市ほか
芸備線・木次線グループ利用助成金	市内の駅から芸備線・木次線を利用する市民グループに対する助成	庄原市
JR芸備線利用促進プロデューサー活動事業	専門的知識を有する人材による利用促進策の企画・実施	庄原市
ローカルダイブ・トレイン	「ローカル志向」の人々の呼び込みに向けたモニターツアーの実施	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
臨時シャトルバスの運行	備後庄原駅から市内観光拠点への二次交通を確保する実証実験の実施	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
地域チーム活動支援金	地域チーム（庄原、西城、東城）が取り組む利用促進と関わる地域づくり活動等への支援	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
観光資源情報発信事業	HP、Instagramを活用した芸備線・木次線の歴史や沿線の魅力、関連イベント情報等の幅広い情報発信	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
芸備線サイクルトレイン	沿線におけるサイクルトレインイベントの開催	芸備線対策協議会
鉄道利用に係るニーズ調査	鉄道利用者に対する乗込調査の実施	芸備線対策協議会
広島ローカル線周遊デジタルスタンプラリー	芸備線・福塩線・呉線との連携による駅や観光地などを巡るデジタルスタンプラリーの実施	芸備線対策協議会
芸備線おもてなしイベント	沿線駅周辺における集客イベントの実施	芸備線対策協議会

1 令和4年度 利用促進事業の取組状況

➤ 一覧（広島県域）

事業名	事業内容	実施主体
快速「庄原ライナー」の運行	広島駅→備後庄原駅への直通・速達列車の運行	JR西日本
秋のバス&レールどっちも乗り放題パス2デイ“庄原⇄東城”	備後庄原駅～東城駅間のJR芸備線と高速バスを2日間乗り放題となる企画券の発売	備北交通・JR西日本
通学利用促進モニター調査	JR芸備線を利用し通学する見込みのある芸備線沿線地域（三次・庄原）の中学校に通う生徒を対象に、モニター調査を実施。	広島県・庄原市
地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助	住民の利用促進機運を醸成するため、芸備線を利用し、盛り上げる取組を行う地元市、沿線協議会が企画する利用促進策への補助	広島県

目次

- 1 令和4年度 利用促進事業の取組状況
- 2 令和5年度 利用促進事業の取組状況**

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

➤ 令和5年度取組の全体像

R4年度の取組の基本理念

JR芸備線の利用促進の取組を通じて、**交流人口や定住人口の増加を図り、魅力ある、持続可能な沿線地域のまちづくりを推進**する。

①利用促進への市民参画の推進 ②生活交通としての利用促進 ③市外からの乗客の呼び込み

R5年度の取組の基本理念

これまで取り組んできた利用促進事業の方向性を踏まえつつ、まちづくりや観光施策と連携した、鉄道を含む持続可能な公共交通機関の構築を、交通事業者などと一体となって、推進する必要がある。

事業実施に当たっての方針

人流データの分析の観点も取り入れながら、次の4つの取組の方向性を踏まえた、利用促進事業を推進する。

- 外出需要の創出…定期的なイベントの開催場所を交通拠点を中心に展開するなど、日常的な外出を促す空間・場所の整備。新しい観光プロダクトの開発による需要創出。
- 発生源の集約化…車を持たない人も暮らしやすい環境の整備。住宅団地への乗換拠点を整備といった2次交通改善。
- 目的地の集約化…駅を人が集まる場所として、にぎわいをもたらす取組。
- 交通手段の転換…通勤・通学者に対してのモビリティマネジメント施策の実施など、鉄道利用への行動変容を促す取組。

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【庄原市】

ローカルダイブ・トレイン

継続＋新たな取組

○ 目的

「ローカル志向」の人々の外出需要の創出につなげていくよう、交流人口・定住人口の増加に繋がる取組を行っていくため、芸備線・木次線を活用した地域の日常や、地域で暮らす人々の心に触れることをテーマとした旅を提供する。

○ 内容

「ローカル志向」の人々の訪問がもたらす地域への影響（便益）・波及効果等を測るよう、昨年度に引き続きモニタリングを実施するとともに、市の観光施策や移住・定住施策と連携しながら、商品化につなげていく。

観光プロダクト開発

継続

○ 目的

芸備線・木次線の乗車と沿線の観光資源を有機的に結び付け、「ローカル志向」の人々を呼び込むための、新たな観光コンテンツの開発に取り組む。

○ 内容

主に沿線の自然資源を生かしたアクティビティの継続的な提供が行えるよう、体制を構築していく。開発する観光プロダクトは、「ローカルダイブ・トレイン」に盛り込めるよう「ローカル志向」の人々の呼び込みの促進につながるものとしていく。

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【庄原市】

庄原ライナー運行及びバス等との連携事業

継続＋新たな取組

○ 目的

庄原ライナーと並行して二次交通改善を図ることにより、**移動の利便性向上・負担軽減による交通手段の転換**を図る。また、庄原市内を周遊を促し、評価してもらうことで、**観光コンテンツの改善**を図る。

○ 内容

・ 臨時シャトルバスの運行

庄原ライナーと接続する市内観光拠点への臨時シャトルバスを運行する。

庄原ライナーと接続する二次交通を整備することで、利用機会の拡大につなげていく。

夏の庄原ライナー運行期間中については、実績がある「東城・帝釈峡方面」のほか、芸備線沿線以外も含めた観光拠点への誘客効果を測るよう「高野・比和方面」への運行を行う。

・ 芸備線・高速バス割引乗車券補助事業

備後庄原～広島のJR片道乗車券と高速バス片道乗車券をセットにした企画乗車券を作成する。

秋の庄原ライナー運行期間に合わせて取り組む中で、観光利用による誘客効果だけでなく、日常生活も含めた利用の底上げを図る。

・ その他

夏の庄原ライナー運行期間中における国営備北丘陵公園行バスのダイヤ変更、庄原ライナーツアーの実施 他

地域チームに対する活動支援

継続

○ 目的

地域チームの取組を後押しすることで、市民の**芸備線に対する愛着の形成**と利用機運の醸成を図り、**芸備線を利用する行動変容を促していく**。

○ 内容

各地域チーム（庄原、西城、東城）による芸備線・木次線の利用促進のほか、利用促進と関わる地域づくりの取組に対し、支援金を交付する。

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【庄原市・広島県】

中学校3年生への芸備線利用促進の呼び掛け

継続

○ 目的

庄原市内又は三次市内の高等学校へJR芸備線を利用し通学する見込みのある、庄原市内及び三次市内の芸備線沿線地域の中学校生徒に対し、芸備線を利用した通学の呼び掛けを行うことで、**交通手段の転換**（送迎→公共交通等）を促していく。

○ 内容

高校通学の方法を検討する中学生3年生に向けて、通学定期券情報、乗車方法、運行情報に関するお知らせ、先輩たちの声として芸備線で通学することのメリットなどの情報を発信していく。意識の醸成と取組の日常化には相当な時間を要するため、令和4年度に引き続き実施する。

地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助

継続

○ 目的

利用促進策に係る経費の負担軽減を図ることで、事業の持続可能性を高め、利用促進の市民参画を推進し、芸備線を利用する行動変容を促していく。

○ 内容

芸備線を利用し、盛り上げる取組を行う地元市、沿線協議会が企画する利用促進策への補助補助を活用しより広域的な取組、市民と協働した取組を推し進めてもらうため、施策の提案や、フォローアップを積極的に行っていく。

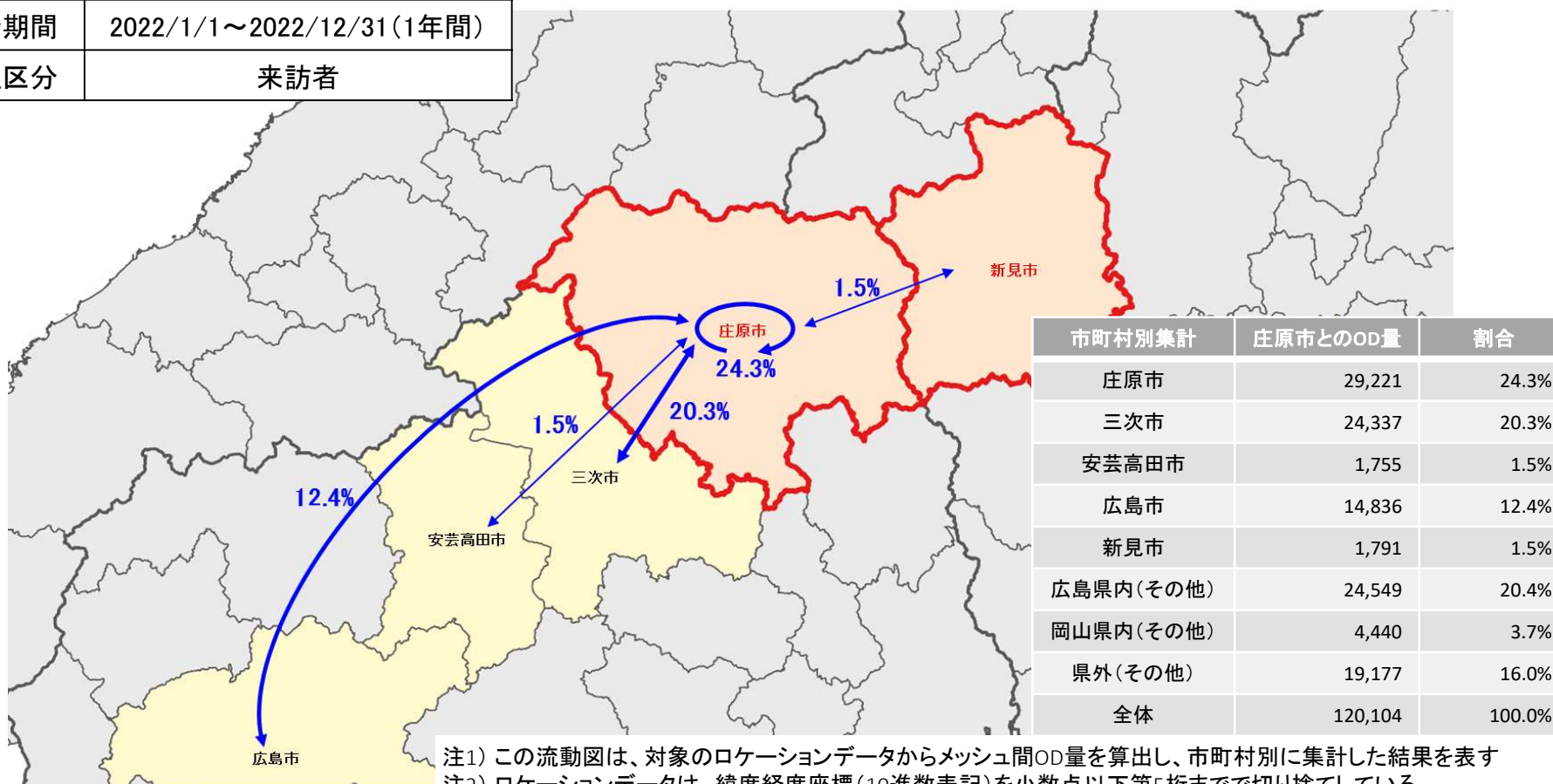
2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

➤ 取組方向性

庄原市への来訪者の移動のうち、広島市や三次市といった芸備線沿線市との移動が約3割を占めている。

GPSデータを用いた市間流動分析

集計期間	2022/1/1～2022/12/31(1年間)
属性区分	来訪者



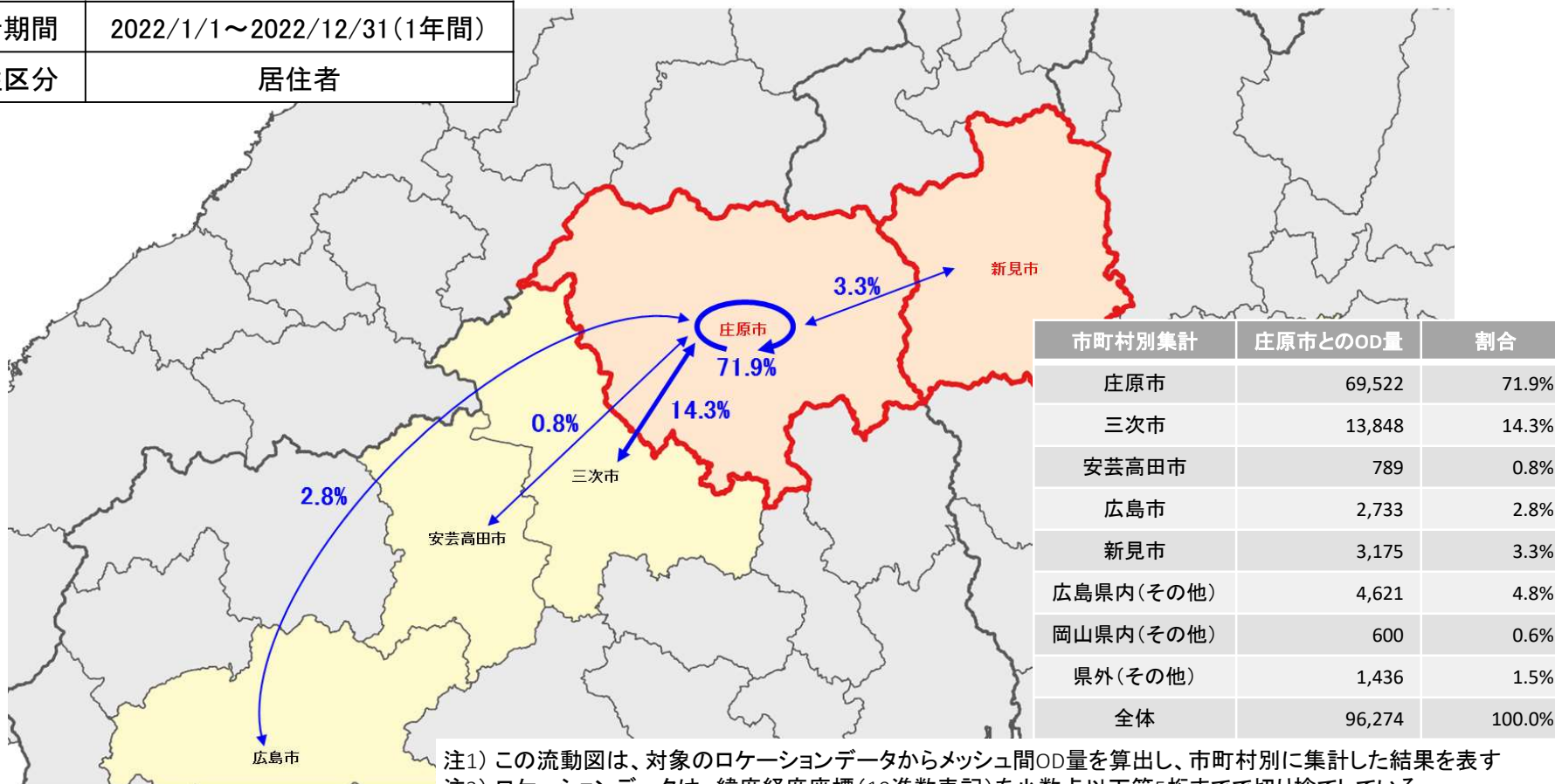
2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

➤ 取組方向性

庄原市居住者の移動の8割以上を、庄原市内での移動及び三次市との往来が占めている。

GPSデータを用いた市間流動分析

集計期間	2022/1/1～2022/12/31(1年間)
属性区分	居住者



2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

➤ 具体的施策

継続＋新たな取組

庄原市への観光客が最も多い8月に合わせて、初めて庄原ライナーを設定。
夏休み期間の新たな需要の取り込みも期待される。

快速「庄原ライナー」の夏季運行

□ 期 間

7月22日（土）～8月20日（日）の土日祝 計11日間

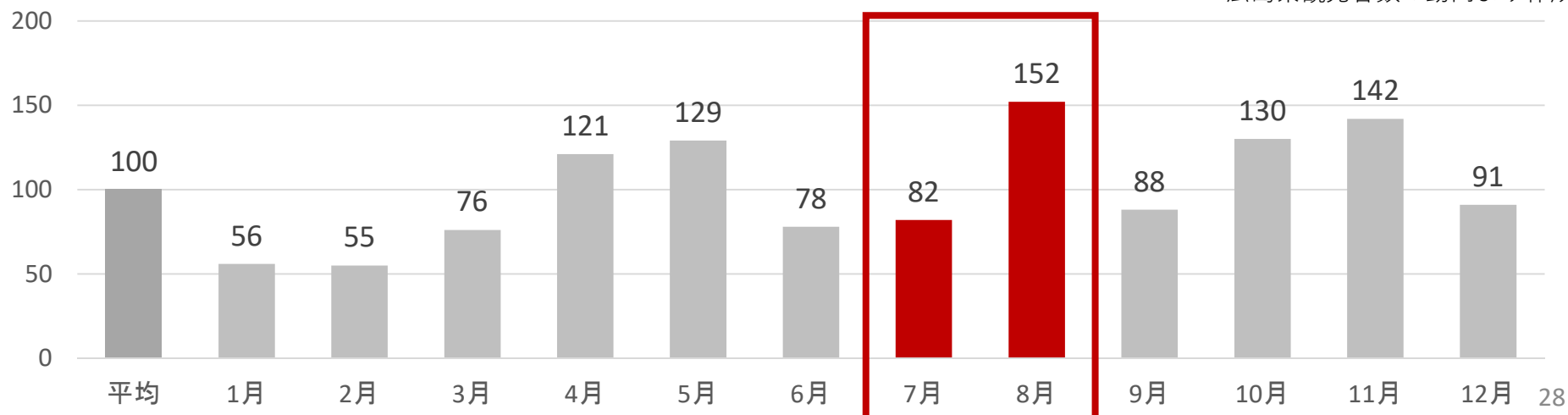
□ 運転時刻



上り	広島	矢賀	戸坂	安芸矢口	玖村	下深川	志和口	向原	甲立	三次	備後庄原
	9:00	9:04	9:10	9:15	9:19	9:23	9:45	9:59	10:09	(10:25) 10:30	(10:56)

□ 庄原市への月別観光客数指数の推移(2017～2019の3か年平均)

広島県観光客数の動向より作成



2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

➤ 具体的施策

継続＋新たな取組

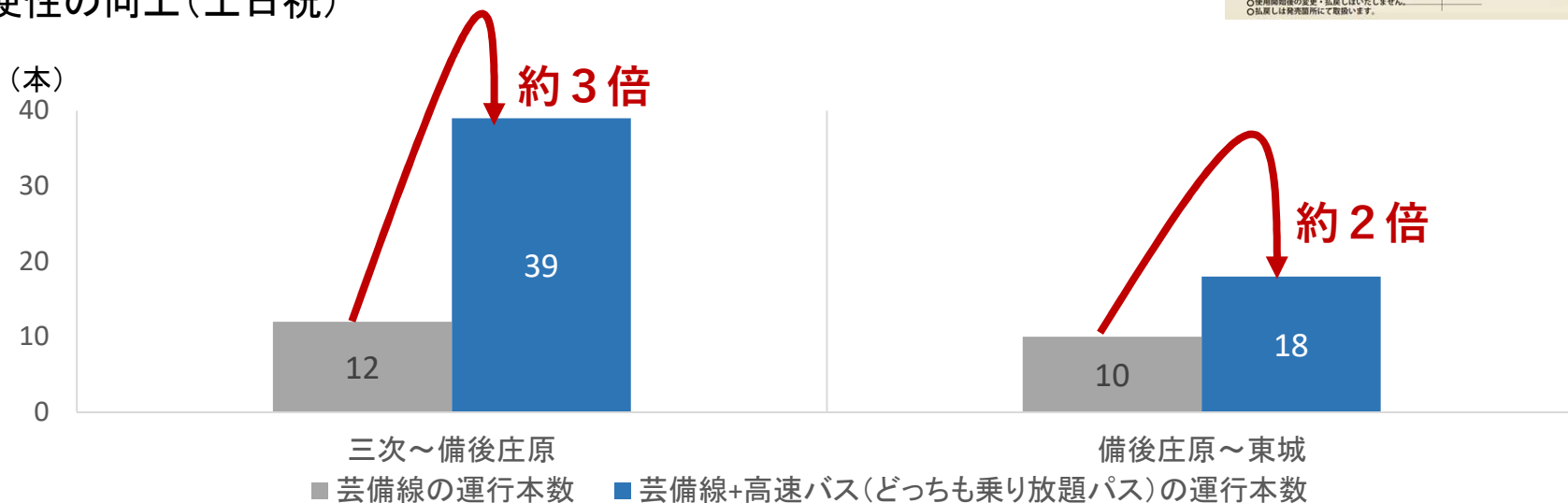
対象区間を「備後庄原駅⇔東城駅」から「三次駅⇔東城駅」に拡大する一方、発売価格は据え置き、利便性を向上。

夏休みバス&レール どっちも乗り放題パス2デイ “三次⇔東城”

- 設定期間 令和5年7月22日～8月28日
(土日祝のいずれか1日以上を含む連続した2日間)
- 発売金額 大人 2,000円
こども 1,000円
- 対象区間 J R：三次駅～東城駅
高速バス：三次駅前～東城駅前

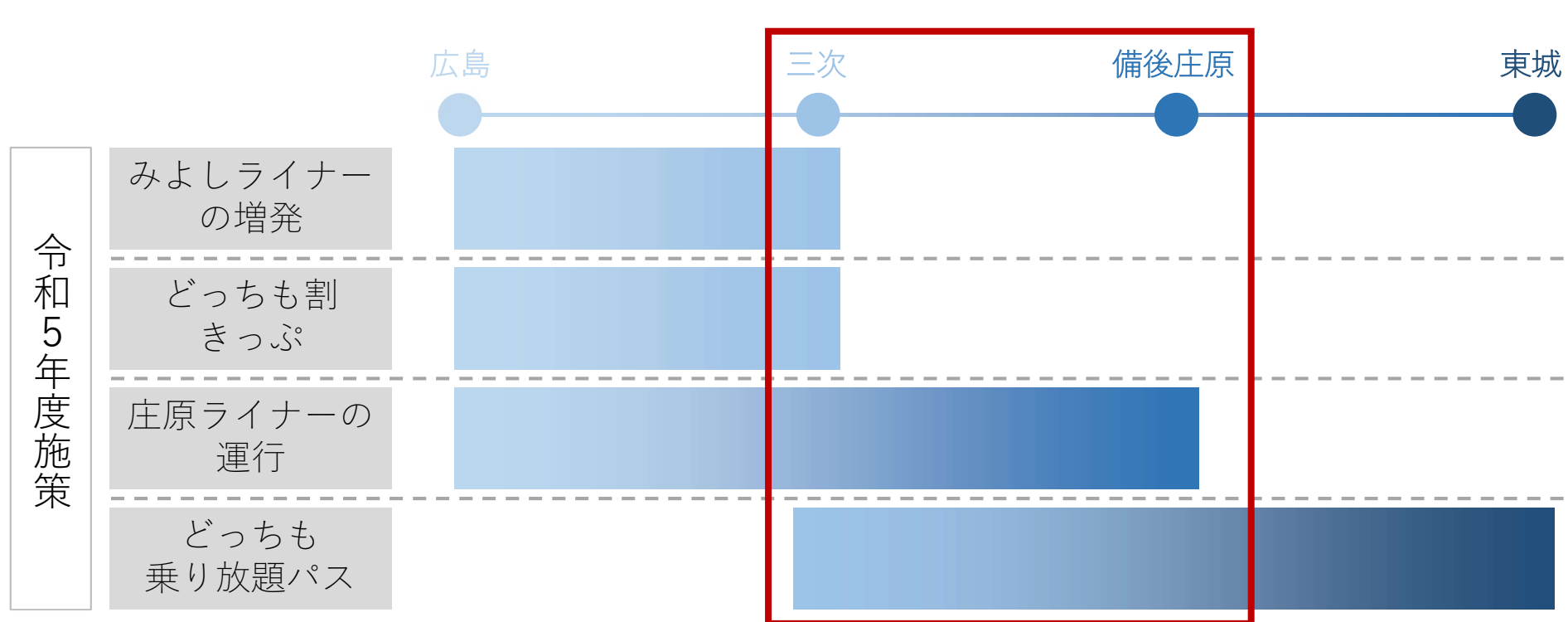


◆ 利便性の向上(土日祝)



2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

三次～庄原間の利便性向上により、広島～三次間の施策との相乗効果も期待され、広島都市圏⇔庄原エリアの流動促進が期待される。



広域流動の促進による庄原エリアへの波及効果について
検証を行い、効果や課題を整理する。

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況【JR広島支社】

地域交通の利便性向上や関係人口の創出、地域の魅力発信など、庄原エリアの活性化に繋がる取り組みを継続的に実施。

地域交通の利便性向上

バス乗り放題 ちょこっとパス
CHOCOTTO PASS
1ヶ月 500円 / 3ヶ月 1,500円

備北学生応援パス
庄原→高 庄原→平子 庄原→西城
高→西城 平子→西城
1,000円 / 3,000円

2023年4月1日 開始
対象者 備北交通通学定期・JR通学定期をお持ちの学生さん限定！
備北交通通学定期・JR通学定期をお持ちの学生さん限定！
毎月500円で市内のさまざまなエリアで備北交通のバスを乗り放題できる定期券です！

2023年4月1日 開始
対象者 備北交通通学定期（庄原・高・平子・西城）のいずれかを持つ高校生
対象者 JR通学定期（庄原・高・平子・西城）のいずれかを持つ高校生
有効期限 1年（2023年4月1日～2024年3月31日）
有効期限 1年（2023年4月1日～2024年3月31日）
購入方法 購入時に本人名義の有効期限内の定期券を窓口にお持ちください。
購入方法 購入時に本人名義の有効期限内の定期券を窓口にお持ちください。
JRの定期券と併用して定額の金額定期券を作成します。

三次・庄原エリア（ちょこっとパス&備北学生応援パス）

バス乗り放題 ちょこっとパス
CHOCOTTO PASS
1ヶ月 500円 / 3ヶ月 1,500円

東城エリア

2023年4月1日 開始
対象者 備北交通通学定期をお持ちの学生さん限定！
備北交通通学定期をお持ちの学生さん限定！
毎月500円で市内のさまざまなエリアで備北交通のバスを乗り放題できる定期券です！

2023年4月1日 開始
対象者 備北交通通学定期（庄原・高・平子・西城）のいずれかを持つ高校生
対象者 JR通学定期（庄原・高・平子・西城）のいずれかを持つ高校生
有効期限 1年（2023年4月1日～2024年3月31日）
有効期限 1年（2023年4月1日～2024年3月31日）
購入方法 購入時に本人名義の有効期限内の定期券を窓口にお持ちください。
購入方法 購入時に本人名義の有効期限内の定期券を窓口にお持ちください。
JRの定期券と併用して定額の金額定期券を作成します。

東城エリア（ちょこっとパス）

関係人口の創出

都心に住みながら、里山暮らしを体験！

第2のふるさとづくり

PREDEAR プレディア中広町レジデンス入居者様限定

1000年アート里山・庄原
食育交流と古民家ステイを楽しむ旅
モニ 第2のふるさとづくり 5グループ

地域の魅力発信



2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

➤ 一覧（広島県域）

事業名	事業内容	実施主体
芸備線・高速バス割引乗車券補助事業	JR片道乗車券とバス片道乗車券をセットにした割引企画乗車券の作成支援	庄原市
芸備線（広島ー備後庄原間）開業100周年記念事業	芸備線（広島ー備後庄原間）開業100周年に係る集客事業の実施	庄原市
芸備線・木次線グループ利用助成金	市内の駅から芸備線・木次線を利用する市民グループに対する助成	庄原市
JR芸備線利用促進プロデューサー活動事業	専門的知識を有する人材による利用促進策の企画・実施	庄原市
ローカルダイブ・トレイン	「ローカル志向」の人々の呼び込みに向けた旅の提供	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
臨時シャトルバスの運行	備後庄原駅から市内観光拠点への二次交通を確保する実証実験を実施	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
観光プロダクト開発	沿線の観光資源の強化に向けた新たな観光コンテンツの開発	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
地域チーム活動支援金	地域チーム（庄原、西城、東城）が取り組む利用促進と関わる地域づくり活動等への支援	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
観光資源情報発信事業	HP、Instagramを活用した芸備線・木次線の歴史や沿線の魅力、関連イベント情報等の幅広い情報発信	庄原市芸備線・木次線利用促進協議会
芸備線サイクルトレイン	沿線におけるサイクルトレインイベントの開催	芸備線対策協議会
芸備線deカーブ応援事業	プロ野球観戦時における芸備線の利用を促す取組の実施	芸備線対策協議会

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

➤ 一覧（広島県域）

事業名	事業内容	実施主体
快速「庄原ライナー」の夏期運行	例年秋に運行している広島駅→備後庄原駅への直通・速達列車を夏期に設定	JR西日本
夏休みバス&レールどっちも乗り放題バス2デイ“三次⇄東城”	昨年度から対象区間を「三次駅～東城駅間」に拡大したJR芸備線と高速バスを2日間乗り放題となる企画券の発売	備北交通・JR西日本
中学校3年生への芸備線利用促進の呼び掛け	JR芸備線を利用し通学する見込みのある沿線市（三次・庄原）の中学校に通う生徒を対象に、モニター調査を実施。	広島県・庄原市
地元市・沿線協議会が企画する利用促進策への補助	住民の利用促進機運を醸成するため、芸備線を利用し、盛り上げる取組を行う地元市、沿線協議会が企画する利用促進策への補助	広島県

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

➤ 今後の利用促進事業の取組について

2-1 移動データの活用

2-2 今後の取組の方向性

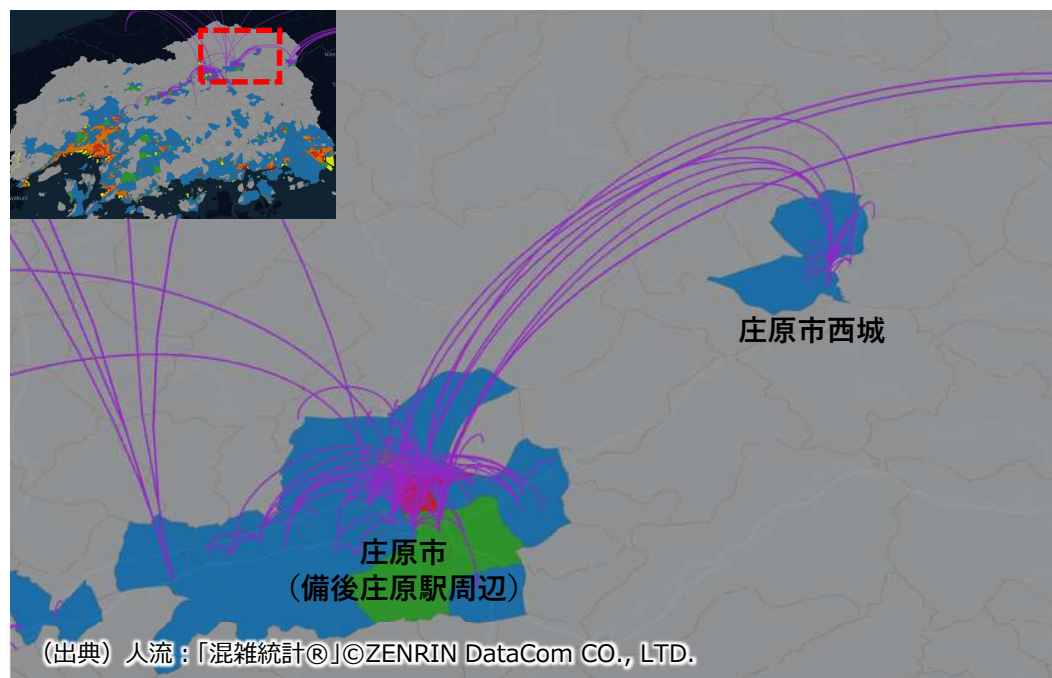
2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

> 2-1 移動データの活用

2-1 移動データの活用

現在把握している移動量データ（県内全域の出発地、目的地、移動時間帯、人数の把握が可能）を基に、地域間で移動の多い箇所を特定し、最寄り駅にパークアンドライドを整備するなどの駅への接続改善や、時間帯に合わせたダイヤ調整といった施策を展開する。

○ 例：備後庄原駅周辺～庄原市西城のAM6:00～8:00の人流



左図の分析

- 庄原市西城から備後庄原駅周辺には、朝の通学通勤時間帯に一定の人流が見られる。
- JRの定期券発券状況を見ると、大部分は車移動だと推測される。

施策

- 通学・通勤時間に使いやすい往復のダイヤ設定や、二次交通の整備等で公共交通利用への転換を促す。

「混雑統計®」データは、NTTドコモが提供するアプリケーション(※)の利用者より、承諾を得た上で送信される携帯電話の位置情報を、NTTドコモが総体的かつ統計的に加工を行ったデータ。位置情報は最短5分毎に測位されるGPSデータ(緯度経度情報)であり、個人を特定する情報は含まれない。※ドコモ地図ナビサービス(地図アプリ・ご当地カイト)等の一部のアプリ。

2 令和5年度 利用促進事業の取組状況

➤ 2-2 今後の取組の方向性

◆ 庄原市の方向性

- これまで取り組んできた利用促進事業の方向性（「生活交通としての利用促進」、「市外からの乗客の呼び込み」、「利用促進への市民参画」）を踏まえて、利用促進策を展開する。
- 今後の展開に当たっては、「ローカル鉄道のネットワーク」を活用し、交流人口・定住人口の増加につながるシビックプライドの形成に大きく貢献する「ローカル志向」の新たな客層を呼び込む取組を、地方創生やインバウンド観光の推進等、国の政策と整合・連携を図りながら強力に推進する。

2 令和5年度 利用促進事業の取組予定

> 2-2 今後の取組の方向性

◆ 今後の取組

これまでの利用促進の方向性である「生活交通としての利用促進」、「市外からの乗客の呼び込み」、「利用促進への市民参画」を踏まえ、まちづくりや観光施策と連携した、鉄道を含む持続可能な公共交通機関の構築を推進していくため、人流データの分析も取り入れながら、次の4つの観点で、利用促進策を展開していく。

基本的な利用促進の方向性

- ・ 市外からの乗客の呼び込み
- ・ 生活交通としての利用促進
- ・ 利用促進への市民参画
- ・ 「ローカル志向」の新たな客層の呼び込み

観点①

移動生成量の増加（外出需要の創出）

観点②

発生源（出発場所）の集約化

観点③

集中先（目的地）の集約化

観点④

交通手段の転換

2 令和5年度 利用促進事業の取組予定

➤ 2-2 今後の取組の方向性

◆ 4つの観点について

① 移動生成量の増加（外出需要の創出）

- 出かける理由がない、出かけたが移動が面倒という人々に対して、外出意欲を掻き立てる取組、移動の手間・負担を軽減させる取組を行い、潜在需要の掘り起こしを図る。

② 発生源（出発場所）の集約化

- 家、職場から交通拠点が近ければ、公共交通機関を使う頻度が増えるという観点から、交通機関が身近な存在となるような取組を行う。

③ 集中先（目的地）の集約化

- 芸備線庄原区間の基幹駅である備後庄原駅・備後西城駅・東城駅周辺を、人が集う場所として、にぎわいをもたらす取組を行う。

④ 交通手段の転換

- 通勤通学等で公共交通を使いやすい環境に整備しつつ、通勤・通学・通院者に対するモビリティマネジメントを行い、鉄道への利用転換させる行動変容を促す。

ご清聴ありがとうございました。